労働政策研究報告書　No. 230
2024
JILPT：The Japan Institute for Labour Policy and Training

「二極化」以後の非正規雇用・労働
―公的統計等の公表データ集計・個票データ分析より―

労働政策研究・研修機構

労働政策研究報告書 No. 230
2024

「二極化」以後の非正規雇用・労働

―公的統計等の公表データ集計・個票データ分析より―

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

ま　え　が　き

本報告書は、労働政策研究・研修機構（JILPT）第5期プロジェクト研究「多様な人材と活躍に関する研究」のなかの「多様な就業形態で働く人々の実態に関する総合的研究」（2022～26年度）の成果のひとつである。

日本の労働研究や労働政策において、正規雇用・労働と非正規雇用・労働の「二極化」が問題とされて久しい。非正規の側について言えば、雇用が不安定であり、賃金が低く、教育訓練機会が少なく、セーフティネットが脆弱であること、自身が非正規であることを「不本意」であると考える者が少なくないこと、非正規から正規に転換するのが難しく、そのための足掛かりとなる中間的な雇用区分が乏しいことなどが問題とされてきた。

本報告書では、そのような問題認識が成立してから一定の年数が経過していること、非正規労働者保護を目的とした法政策の導入、労働力不足の進行など大きな環境変化が生じていることを踏まえ、非正規雇用・労働の実態に関する知見を更新し、主として2010年代において正規・非正規の「二極化」にかかわる問題状況がどのように変化したのかをまとめた。

具体的作業として、公的統計を時系列的に集計し、非正規雇用・労働のマクロ的動向を把握するとともに、厚生労働省が実施した統計調査、JILPTが実施したアンケート調査の個票データを分析し、非正規雇用・労働のミクロ的実態を明らかにした。

集計・分析の結果から、正規・非正規の「二極化」問題は一定程度は縮小したと言えるが、労働政策の課題として「二極化」問題は継続していると言うべきであり、それに加えて重要なのは、「二極化」にかかわる問題の性質が変化していると認識することであると結論づけられる。

本報告書が、政労使の関係者の参考となり、労働者の福祉の増進と経済の発展に資すれば幸いである。

2024年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長　　藤　村　博　之

執　筆　担　当　者（執筆順）

氏　名	所　　属	担　当
高橋（たかはし）　康二（こうじ）	労働政策研究・研修機構 主任研究員	以下を除くすべて
岡本（おかもと）　武史（たけし）	労働政策研究・研修機構 アシスタントフェロー	第 1 章、第 2 章、補論 2
福井（ふくい）　康貴（やすたか）	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授	第 4 章
森山（もりやま）　智彦（ともひこ）	労働政策研究・研修機構 研究員	第 6 章
西野（にしの）　史子（ふみこ）	一橋大学大学院社会学研究科 教授	第 7 章

※報告書全体のとりまとめは高橋康二が行った。付属統計表は岡本武史が作成した。

「多様な就業形態で働く人々の実態に関する総合的研究」研究会メンバー

（2024 年 3 月末時点、五十音順、◎は代表者）

岡本　武史　　労働政策研究・研修機構 アシスタントフェロー
／一橋大学大学院社会学研究科 博士課程後期
◎高橋　康二　　労働政策研究・研修機構 主任研究員
西野　史子　　一橋大学大学院社会学研究科 教授
福井　康貴　　名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
森山　智彦　　労働政策研究・研修機構　研究員

目　　次

まえがき
執筆担当者
目次

序章　研究の概要 …… 1
　第 1 節　背景と問題関心 …… 1
　第 2 節　調査研究の論点 …… 7
　第 3 節　方法とデータ …… 8
　第 4 節　各章の要約 …… 13

第 1 部　非正規雇用・労働のマクロ的動向――公表データの時系列集計 …… 25
第 1 章　正規・非正規雇用の量的推移 …… 27
　第 1 節　15 歳以上人口における就業・非就業の状況 …… 28
　第 2 節　非正規雇用の状況（概説） …… 41
　第 3 節　非正規雇用の状況（詳細） …… 49
　第 4 節　小括 …… 73
第 2 章　正規・非正規雇用の質的変化 …… 76
　第 1 節　雇用形態別にみた非正規雇用の質的変化 …… 77
　第 2 節　雇用期間別にみた雇用の質的変化 …… 85
　第 3 節　労働時間別にみた雇用の質的変化 …… 90
　第 4 節　事業所にとっての非正規雇用の位置づけ …… 98
　第 5 節　本人にとっての非正規雇用の位置づけ …… 100
　第 6 節　小括 …… 105

中間考察 …… 107

第 2 部　非正規雇用・労働のミクロ的実態――個票データの二次分析 …… 111
第 3 章　不本意非正規労働者の内実は変化したか …… 113
　第 1 節　不本意非正規率低下のなかで …… 113
　第 2 節　先行研究 …… 114
　第 3 節　データと変数 …… 115
　第 4 節　分析結果 …… 116
　第 5 節　考察と結論 …… 126

第 4 章　2010 年代における正規雇用・非正規雇用間賃金格差……130
第 1 節　はじめに……130
第 2 節　先行研究……132
第 3 節　方法……137
第 4 節　記述的分析……139
第 5 節　正規雇用・非正規雇用間賃金格差と最低賃金……150
第 6 節　結論……159
第 5 章　人手不足企業のパートタイム・有期雇用労働者……167
第 1 節　はじめに……167
第 2 節　データと変数……168
第 3 節　人手不足企業におけるパートタイム・有期雇用労働者の人事管理……170
第 4 節　人手不足企業におけるパートタイム・有期雇用労働者の就業実態……178
第 5 節　考察と結論……183
第 6 章　人手不足と非正規雇用――なぜ正社員不足を非正規雇用で代替するのか……187
第 1 節　研究背景と目的……187
第 2 節　理論的検討……187
第 3 節　データ……189
第 4 節　正社員を確保できないために非正社員を活用しているのはどのような事業所か……190
第 5 節　正社員不足を非正社員の活用で補うことが正社員と非正社員の職業や賃金格差にどのような影響を与えるか……198
第 6 節　まとめ……217
第 7 章　無期転換社員・限定正社員の実態と意識……220
第 1 節　はじめに……220
第 2 節　仮説……221
第 3 節　データと変数……223
第 4 節　企業から見た無期転換社員・多様な正社員の活用状況……225
第 5 節　労働者 WEB 調査からみた無期転換社員・多様な正社員の実態……231
第 6 節　結論と含意……241
第 8 章　今後も派遣労働者としての働き方を希望しているのは誰か……246
第 1 節　はじめに……246
第 2 節　先行研究と仮説……247
第 3 節　データと変数……249
第 4 節　クロス集計……251
第 5 節　回帰分析……253

第 6 節　短時間の派遣労働者……256
第 7 節　結論と含意……260
補論 1　事業所固定効果をコントロールした賃金関数の推計……263
補論 2　男女の「稼ぎ方」と配偶者・子供の有無の関係に係る実証分析……271

終章　「二極化」以後の非正規雇用・労働……301
第 1 節　非正規雇用・労働の実態に関する知見の更新……301
第 2 節　「二極化」にかかわる問題状況の変化と政策含意……304

付属統計表（ウェブページ公開のみ）……311-554

調査票（ウェブページ公開のみ）……555-701